

八戸工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	歴史A(0213)	
科目基礎情報						
科目番号	2M03		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	産業システム工学科機械システムデザインコース	対象学年	2			
開設期	前期	週時間数	2			
教科書/教材	「世界の歴史」編集委員会編『新しいちど読む山川世界史』					
担当教員	佐伯 彩					
到達目標						
<ul style="list-style-type: none"> ・近世のヨーロッパ世界についての専門用語や知識を習得する。 ・近世のヨーロッパ世界における国際情勢の変遷を理解する。 ・近世ヨーロッパ世界の文化について理解する。 						
ループリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目1	世界史に関する専門用語や知識を理解し、説明できる。	日本史に関する専門用語や知識を理解できる。	日本史に関する専門用語や知識を理解できない。			
評価項目2	近世ヨーロッパの国際情勢について理解し、説明できる	近世ヨーロッパの国際情勢について理解できる。	近世ヨーロッパの国際情勢について理解できない。			
評価項目3	近世ヨーロッパ世界の文化について理解し説明できる。	近世ヨーロッパ世界の文化について理解できる。	近世ヨーロッパ世界の文化について理解できない。			
学科の到達目標項目との関係						
ディプロマポリシー DP1 地域志向 ○						
教育方法等						
概要	【開講学期】春学期週4時間 ・近世のヨーロッパ世界についての専門用語・知識を理解する。 ・近世のヨーロッパ世界における国際情勢の変遷を理解する。 ・近世ヨーロッパ世界の文化について理解する。					
授業の進め方・方法	・配布プリントとオンラインでの動画配信を用いた講義形式を採用。 ・総合評価は授業中の小テストを基礎とした平常点（20%）、学期末到達度試験（80%）の割合で行う。 ・総合評価を100点満点とし、60点以上を合格とする。					
注意点	・国際社会の情勢や現在の我々の社会状況への関心を常に持つておくこと。 ・近世ヨーロッパの文化は、まさに自然科学の理解を深めるうえで重要である。理系学問との関係を絶えず念頭に置きつつ、授業に意欲的に参加すること。					
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標		
		1週	近世ヨーロッパの政治と文化(授業ガイダンス)	授業に臨む上での注意事項並びに授業の概要について理解する。		
		2週	近世ヨーロッパの政治と文化①	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		3週	近世ヨーロッパの政治と文化②	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		4週	近世ヨーロッパの政治と文化③	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		5週	近世ヨーロッパの政治と文化④	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		6週	近世ヨーロッパの政治と文化⑤	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		7週	近世ヨーロッパの政治と文化⑥	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
	2ndQ	8週	近世ヨーロッパの政治と文化⑦	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		9週	近世ヨーロッパの政治と文化⑧	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		10週	近世ヨーロッパの政治と文化⑨	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		11週	近世ヨーロッパの政治と文化⑩	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		12週	近世ヨーロッパの政治と文化⑪	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		13週	近世ヨーロッパの政治と文化⑫	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		14週	近世ヨーロッパの政治と文化⑬	近世世界の成り立ちと文化を理解できる。		
		15週	到達度試験 (答案返却とまとめ)			
16週						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	世界の資源、産業の分布や動向の概要を説明できる。	3	
				民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。	3	
			技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。	3	
	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3		
			異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3		
評価割合						

	授業中の小テスト	到達度試験	合計
総合評価割合	20	80	100
基礎的能力	20	80	100